

主体的・
対話的で
深い学び

授業実践

英語

オンラインで世界と教室をつなぎ、

英語技能の向上と多様性の理解を目指す

愛知県立豊田南高校 中島浩平

14:15 打ち合わせ・事前準備



授業前、中島先生は、プレゼンに参加する海外の高校の教師と打ち合わせを実施。今回は、フィリピン・インド・アルメニアから100人以上の高校生が参加。豊田南高校の生徒は、コロナ対策のため、視聴覚室、図書室などに分散し、プレゼンの準備を行うなど、授業に備えた。

本時の概要

【対象／教科／科目】3年生／英語／コミュニケーション英語Ⅲ 【分野・単元】Lesson 7 Why is Dishonesty So Interesting? (全6時間のうちの6時間目。P.43に単元の指導計画を掲載)
 【育成を目指す資質・能力】「コラボレーション・知識の構築」等、21CLD（*1）の6つの資質・能力すべて 【学習内容】「なぜ人は嘘をつくのか」という教科書の素材文のテーマを基に、自分が経験した「罪のない嘘」「大きな嘘」などについて、海外の高校生とオンライン会議ツールを使ってプレゼンテーションなどを行い合い、国や文化は違っても、人間の心理は同じであることを理解する。

本時のキー課題

14:55 「嘘」についてのプレゼン



単元の3時間目までに作成していた資料を使ってプレゼン。生徒たちは、自身の「嘘」についての経験を説明した。相手が話す単語の意味が分からず、慌てて電子辞書で調べたり、別の表現で説明してほしいことを伝えたりして、懸命にコミュニケーションを取った。

主 主体的な学び
対 対話的な学び
深 深い学び

なかしま・こうへい 教職歴12年。同校に赴任して6年目。英語科。マイクロソフト認定教育イノベーター。2019年にフルブライトICT日米教員交流プログラムでデジタル教材の活用法を習得。その知見を生かし、ICTの活用とPBL（*2）を取り入れた授業を展開している。現在は米国大学院にてM.Ed (Master of Education 教育学修士)を取得中。

学校概要

◎「全力」を校訓、「たくましく生きる青年 たゆみなく学ぶ青年 心を大切にできる青年」を教育目標とする。ICT環境を完備したアクティブ・ラーニングルームを新設するなど、生徒の主体的な学びの促進を目指している。

◎設立 1980（昭和55）年

◎形態 全日制／普通科／共学

◎生徒数 1学年約360人

◎2022年度入試合格実績（現浪計） 国公立大は、東京外国語大、名古屋大、大阪大、神戸大、愛知県立大、名古屋市立大などに104人が合格。私立大は、慶應義塾大、早稲田大、同志社大、立命館大、関西学院大などに延べ1,295人が合格。



*1 21世紀型スキルを育成する授業デザイン。Microsoftが出資するITResearchが提供する教育プログラム。「コラボレーション・知識の構築・自律的な学習・現実社会の課題解決と革新的な取り組み・熟達したコミュニケーション・学習のためのICT活用」の6つの能力を育成するための教育手法・評価方法を学ぶ。
 *2 Problem Based Learning、あるいはProject Based Learningの略。

14:43 自己紹介

主
対
深

オンラインセッションの各グループは、同校の生徒2人、2か国の高校生2人の計4人で構成。密を避けるため、同校の生徒は、基本的に1人1台のパソコンを使用。自己紹介に続いて、本時の課題である自分たちが経験した「罪のない嘘」「大きな嘘」などについて、プレゼンを始めた。

14:30 ネチケットの説明・オープニングスピーチ



セッション中のエチケット（ネチケット）を、中島先生が英語で説明。続いて、同校の代表の生徒が、英語でオープニングスピーチを行った。「交流を楽しみましょう」と呼びかけ、4人1組のグループで、オンラインセッションを開始した。

15:15 クロージングスピーチ

主
対
深

プレゼンが終わったグループは、余った時間でフリートーク。好きなスポーツや趣味、将来の夢など、あらかじめ用意した質問をベースに、自由に会話を展開した。生徒たちはまだまだ話し足りない様子を見せる中、最後に同校の生徒がクロージングスピーチを行い、セッションが終了した。

15:05 活動状況の巡視

主
対
深

セッション中、中島先生は各グループを巡回し、進捗を確認。海外の高校の教師から、会話が停滞しているグループがあるという情報が入ると、そのグループのセッションに入り、「何を話していたの？」などと、会話をつないだ。プレゼンを活性化させるのも、ファシリテーターである中島先生の役割だ。

● 私が目指す授業

**生徒とともに世界を旅し、
現実社会とつながる授業**

英語の教師を志した時から、生徒と一緒に世界中を旅するような授業を通じて、現実社会を生き抜くために必要な資質・能力を生徒に育成したいと思っていました。その背景には、教師になる前の、カナダで働いていた経験があります。ネイティブの英語についていけず、辞書を片手にやり取りする中で、顧客からクレームや励ましの言葉をもらい、英語のスキルを高めていきました。その経験から、実践的なコミュニケーション能力を身につけるためには、生徒が必死で考えて、英語を使って主体的に対応しなければならぬ環境を用意する必要があると考えました。

これまで、海外の生徒とオンラインで交流し、互いの国を紹介する活動などを年間数回取り入れてきましたが、もっと普段から生徒を世界中の人たちとつなげたい、他校の生徒も含め、広く日本の英語教育を底上げしたいという思いから、2020年、世界中の教師や高校生が誰でも交流できる Global Classroom

Community (GCC) という学習コミュニティサイトを立ち上げました。以来、GCCを使って200回以上、海外の生徒とのセッションを行ってきました。

授業力やファシリテートの技術を高める上では、21CLDというプログラムが役立つています。それは、21世紀型スキルを育成するための授業デザインを学ぶもので、21CLDが育成を目指す6つの資質・能力を意識して授業をデザインすることを心がけています。

●私の発問・課題設定の観点

切迫した状況を経験する中で、実践的な英語力を身につける

私の授業では、おおむね1か月に1回、GCCを使って、海外の高校生と単元のテーマについて語り合う機会を設けています。今回の単元の最後にも、「なぜ人は嘘をつくのか」という教科書の素材文のテーマを踏まえて、「自分がついた罪のない嘘」「一番大きな嘘」「大切な人に嘘をつかれた経験」などについて、海外の高校生とプレゼンし合うセッションを行いました。

単元は、単に教科書をなぞるだけ

ではなく、最後のセッションを見据えて構成しました。1時間目は、自分がついた嘘について振り返るエッセー・ライティングを実施し、2・3時間目は、人間が嘘をつく際の心理状態について、教科書の素材文を読解することで、理解を深めました。4時間目は、セッションに向けた準備として、発表で使用するプレゼン資料をパワーポイントで作成。5時間目は、セッションに参加する海外の生徒と一緒に、心理学を専攻するグローバル・エデュケーターの英語による講演（嘘の種類や嘘をついた時の身体反応などの話）をオンラインで聞き、セッションに臨みました。

セッションには、フィリピン・インド・アルメニアから100人以上の高校生が参加してくれました。英語力の高いフィリピンやインドの高校生とのコミュニケーションは容易ではありません。会話の途中で単語の意味が分からず、慌てて電子辞書で調べる生徒もいますが、そうした切迫した状況をくぐり抜ける中で、実践的なコミュニケーション力は向上します。セッションの最後に行うフリートークがいつも盛り上がるのは、生徒たちが本気でコミュニケーションを取った証拠だと思えます。

世界の同年代とつながり、生き方を深く考える

生徒たちには、セッションでは、できるだけ自分からコミュニケーションを図るよう、アドバイスしています。海外の人たちは日本人よりもはっきりと意見を主張し、日本人は受け身になる傾向があるので、議論のペースを相手に握られがちです。セッションを通して、グローバル社会で生き抜くための力を身につけてほしいと考えています。

オンラインによる国際交流のよさは、リアルタイムで世界の同年代の生き方に触れられることです。例えば、アルメニアの生徒からは、現在行われているアゼルバイジャンとの武力衝突が、人々の生活にどのような影響を与えているのかを聞くなど、

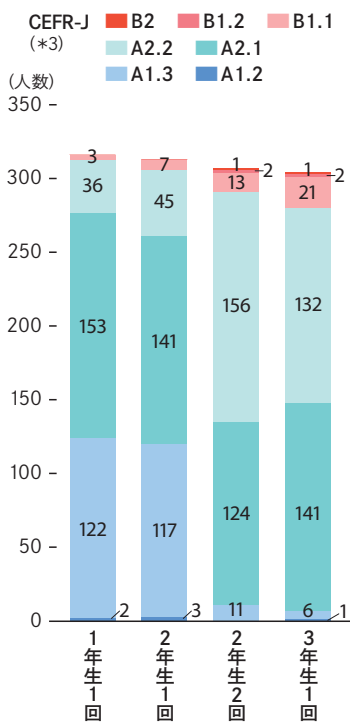
●成果と展望

良質なショックを与え、生徒の視野を広げたい

本校では近年、国際系学部への進学希望者が増えています。オンラインの交流を通じて、海外の同世代たちと切磋琢磨したいという気持ち萌芽しているのだと思います。

異なる環境で生きている同年代と触れ合うことで、現実の世界や多様性を知ることが出来ます。そこから、自分にできることは何か、自分はいかにどのように生きていくべきか、生徒は考え始めます。そのような時に、英語の授業は、単なる言語スキルの獲得だけではなく、多様性を理解し、自分のあり方を考える深い学びの場になるのだと考えています。

☒ GTECの度数分布



※学校資料を基に編集部で作成。

* 3 CEFR-Jは、欧州共通言語参照枠 (CEFR) をベースに、日本の英語教育での利用を目的に構築された、新しい英語能力の到達度指標。CEFR のA1 は、CEFR-Jにおいて、A1.1 / A1.2 / A1.3 というように細分化されて示されている。

英語の技能についても、21年度2年次の英語4技能検定「GETEC」では、多くの生徒がスコアを伸ばしました(図)。1年次は、スピーキング以外の平均スコアは全国平均以下だったのですが、2年次には、4技能すべての平均スコアが全国平均を上回りました。

そうした成果が出ていても、オンラインセッションでは、アジアの高校生の英語力の高さを痛感します。特に、インドの生徒はICTの活用能力も高く、スマートフォンでこれだけ質の高いプレゼン資料を作成できるのかと驚かされます。しかし、セッションを重ねるうちに、海外の高校生の英語力やICTスキル、力強く生きている姿を、グローバル社会の現実として生徒に見せることは重要なことだと思つようになりました。

本時でも、将来の夢を明確に語る海外の高校生の話を聞いて、生徒たちはよい意味でショックを受けているように見えました。たとえそれが敗北感に近いものだとしても、日本国内だけを見ていればよい時代ではないことに気づきかけになるのであれば、そのショックには大きな意味があると思つています。

VIEWnext ONLINEでは、
本時の授業の様子を
ダイジェスト動画で紹介!

VIEWnext ONLINE 検索



中島先生から

英語科の先生方へのメッセージ

学習コミュニティサイト Global Classroom Community (GCC^①) には、Microsoft や Google の認定エドューケーターなどの協力の下、現在、1600人以上の教師が登録しています。毎週土曜日の1時間、高校生が自由に参加できるオンラインセッションを開催しており、2022年11月には90回目を迎えました。GCCを立ち上げた理由の1つは、経済的な理由などで海外研修や留学に行けない子どもたちでも、気軽に海外とつながれる機会をつくってあげたかったことです。先生方には、生徒と一緒に冒険をするつもりでGCCを活用し、積極的に海外とつながっていただきたいと思っています。ダイジェスト動画や、英語学習のための自作コンテンツは、YouTubeで公開しています(②)。

- ① <https://www.facebook.com/groups/605559880152970>
- ② <https://www.youtube.com/@AnimationEnglish7/featured>



単元の指導計画

【教科・科目】英語・コミュニケーション英語Ⅲ 【分野・単元】Lesson 7 Why Is Dishonesty So Interesting? 【テーマ・作品】嘘をつく人間の心理状態を理解する 【設定時数】全6時間(本時は6時間目) 【単元目標】テーマに対する理解を深め、実際のLife Episodeを他国の高校生とシェアし、文化背景が違えど、人間の心理は皆同じであることを理解する。

時数	学習内容	身につけさせたい 資質・能力	授業の流れ	教師の配慮	評価 方法
1	Life Episode Writing	Collaboration / knowledge construction / self-regulation / skilled communication 【知識、技能、思考力、表現力、協働性】	自分が今までに嘘をついた経験を思い出し、英語で書く。その際にペアになって、エピソードをシェアしながらライティングを楽しむ。	【主体的な学び】具体的な実体験をライティングさせる。	
5	Dr. Alice Durgaryan (Psychologist) Online Webinar / Title: Why People Tell a lie?	Collaboration / knowledge construction / the use of ICT for learning / skilled communication 【知識、技能、思考力、表現力、協働性】	心理学の博士課程を修了した Global Educator による、人が嘘をつく時の心理状態についてのオンライン講義を受ける。6時間目にセッションを行う海外の高校生も講義に参加。セッション後に、講義動画を再度視聴できるように、YouTubeで公開する。	【主体的な学び】講義を録画した動画を再度視聴するように指示し、理解を深める環境を準備する。	Self-feedback sheet
6	Online Session Pair Presentation on Zoom	Collaboration / knowledge construction / self-regulation / real-world problem solving and innovation / the use of ICT for learning / skilled communication 【知識、技能、思考力、表現力、協働性】	5時間目に学んだことを生かし、それまでに準備してきた各々のプレゼンをそれぞれチームに分かれて行う。新しい出会いに感謝し、発表することよりも、コミュニケーションを楽しむことを第一に考えて、交流する。オープニングスピーチとクロージングスピーチは本校の生徒が行う。	【主体的な学び】出会いを楽しむ。 【対話的な学び】相手を笑顔にさせるコミュニケーションを心がける。 【深い学び】オンライン交流で起こりやすいトラブルを予期させ、対処方法を事前に確認させる。相手への配慮、ネチケットも怠らないようにさせる。	Self-feedback sheet

※中島先生作成の単元の指導計画を基に編集部で作成。単元の指導計画の全6時間分は、ウェブサイト「VIEW next ONLINE」(<https://view-next.benesse.jp/>) からダウンロードできます。「TOP→学校教育情報誌『VIEW next』→高校版バックナンバー」をご覧ください。